

## 「地域の活性化」に向けた取り組み

### ～和歌山商工会議所 平成 22 年度 実施事業～

和歌山商工会議所 企画・街づくり支援室

室長 上村 味加

ご承知のとおり、和歌山商工会議所は、商工業の振興と地域の発展のための活動を行う地域総合経済団体です。

本誌では、当会議所が平成 22 年度に実施した事業のうち、「地元特産品の販売促進」や「観光振興」による「地域の活性化」に向けた取り組みについてご紹介をさせていただきます。

「当会議所販売展・観光展事業」については、平成 21 年度に実施した「わかやま自慢！特産品販売展 in 東京」の実施が本事業を展開する上で大きな契機となりました。

和歌山の特産品や観光情報を取り揃えたアンテナショップ「わかやま喜集館」が入居している施設「東京交通会館」において、和歌山商工会議所認定の「わかやま自慢品」をはじめとする特産品販売や観光情報の発信を大都市東京で集中的に展開することで、和歌山の特産品や観光ニーズ等ヒット商品の可能性を探り、地域商業の活性化に繋げる事を目的とした初めての試みでした。

多くの方々に来場いただき、和歌山の魅力を強くアピールすることができ、観光や物産に関するニーズのリサーチも併せて出来る等、新しいビジネスチャンス拡大の好機の一助となりました。

続いて、平成 22 年度は「当会議所販売展・観光展！in たま電車!!」を「わかやま自慢！特産品販売展 in 東京」において、たいへん人気であった「和歌山電鐵(株)たま駅長」とのコラボレーションによる相乗効果を踏まえ開催し、和歌山の特産品や観光情報を観光客の皆様に PR を行いました。【記事①として後述】

さらには、日本国内に留まらず、和歌山市と友好都市の中国・済南市で 5 月下旬に開催された第 7 回中国国際園林花卉博覧会のイベントにおいて、地元特産品及び観光資源の PR を実施し、海外においても本事業の活動を展開しました。開催後、一部出展商品に対し、中国からの問合せが入るなど成果を上げることが出来ました。【記事②として後述】

上記のような流れの中、当会議所では、3 年目に入る本事業をさらに盛り上げるため、本年度 11 月には、中部地方を代表する商業都市 名古屋市の商業施設「パレマルシェ神宮」において、当所認定「わかやま自慢品」をはじめとする地元特産品の販売展を行う予定です。

また、「販売展・観光展！in たま電車!!」は、たいへん好評であったことから引き続き開催する事が決まっております。

本県にとって、「地元特産品の販売促進」と「観光振興」は地域活性化に欠かすことのできない重要なキーワードの一つであり、当会議所事業を通じ、「地域経済活性化」に繋がってまいりたいと考えています。

【記事①】

**「和歌山商工会議所販売展・観光展！in たま電車!!」を開催  
～たま電車でわかやまの物産と観光をPR～**

平成22年11月20日、「当会議所販売展・観光展！in たま電車!!」を「和歌山電鐵(株)たま電車内」及び「貴志川線和歌山駅ホーム」において開催した。

本事業は、地元商業の活性化に繋げることを目的として、当会議所認定の「わかやま自慢品」をはじめとする地元特産品や和歌山の観光情報を観光客(乗車客)の方々を対象に宣伝活動を行い、地域資源の魅力を広く発信する取り組みである。

和歌山駅ホームに設けた「出展ブース」には、観光客をはじめ和歌山電鐵を利用する多くの方々が立ち寄り、当会議所農商工連携事業商品である「和歌山ロール」の試食や、現在量販店やスーパーなどで販売され好評を得ている「和歌山ジンジャーエール」の試飲などを楽しんで頂いた。

また、たま電車内では「わかやま観光〇×クイズ大会」を実施し、同乗する子供からお年寄りまでたくさんの参加をいただき、たま駅長代理から出される〇×回答に一喜一憂するなど、車内に笑い声の絶えない、終始なごやかな雰囲気の中で大いに盛り上がりを見せた。



オープニングの様子(駅構内)



わかやま自慢品ブース(駅構内)



わかやま観光クイズ大会の様子  
(たま電車内)



わかやま観光クイズ大会の様子  
(たま電車内)



県・市観光キャンペーンスタッフも応援  
わかやま自慢品ブース(駅構内)

## 【記事②】

## 中国 山東省 済南市へ訪問団を派遣 ～和歌山商工会議所認定「わかやま自慢品」をはじめとする地元特産品や観光をPR～

平成22年5月28日～5月30日の3日間にわたり「第7回中国国際園林花卉博覧会都市文化週間派遣事業」（和歌山市委託事業）として、市からの要請を受け、当会議所職員2名を含む総勢7名による「済南都市文化週間訪問団」を派遣した。期間中は、中国山東省済南市の同博覧会場において和歌山市ブースを出展し、当所認定「わかやま自慢品」をはじめとする地元特産品や観光情報のPR活動を行った。

済南市は和歌山市と友好都市提携を結んでから27年目を迎え、北は黄河、南は泰山に接し、山東省の省都として、省内の輸送面で重要な位置を占めている。

歴史は古く、漢の時代に済南と名付けられ、以降、山東省の政治、経済、文化の中心地として栄え、現在600万人が暮らす。市内には、たくさんの泉があり、山紫水明の地として観光の名所にもなっている美しいまちである。

現地では、まず、博覧会場におもむき、出展に備えた準備作業を行い、出展ブースを整えた。

出展初日は、金曜日で広大な会場内ということもあり出展ブース付近の人通りは少なかったが、週末となる土曜日・日曜日には、多くの来場者が訪れ、紀州てまりの展示や菓子類の試食を行う「和歌山市ブース」に興味を示し立ち寄って行く方々で大変賑わった。

特に、「和歌山ラーメン」の試食では長い行列ができるなど、盛況であり、「スープがおいしい！」と、高い評価を受けた。

また、山東省外事弁公室や済南市外事弁公室



済南市内風景



和歌山市キャンペーンスタッフ「アゼリア」も応援参加



来場者で賑わう出展ブースの様子

との歓迎レセプションならびに済南市国際園林局との歓迎昼食会を通して、両市の文化や地域の習慣等について意見交換を行い、終始なごやかなムードで懇親を深めることができた。

今回の活動により、和歌山市、和歌山商工会議所、済南市の友好交流に寄与できたものと思われ、また、済南市の方々が和歌山市を訪れたくなるような「和歌山の魅力発信」が実現できたものとする。



人気の和歌山ラーメンに行列で並ぶ様子